

百の診療所より一本の用水路を

劇場版

# 荒野に希望の灯をともす

朗読 石橋蓮司 / 語り 中里雅子

取材 柿木喜久男 / 大月啓介 / アミン・ウラー・ベグ

CG 平野雄一 / 音効 渡辺真衣 / 大島亮 / 演奏 中村幸

編集 櫻木まゆみ / 撮影・監督 谷津賢二 / 構成・制作 上田未生

文化庁文化芸術振興費補助金 / 独立行政法人 日本芸術文化振興会  
企画 ペシャワール会 / 製作 日本電波ニュース社 2022年 / 日本 / カラー / 90分

20年以上に渡り撮影した映像素材から 医師 中村哲の生き様を追うドキュメンタリーの完全版！

# これは「生きるための」戦いだ。

アフガニスタンとパキスタンで、病や貧困に苦しむ人々に寄り添い続けた男、  
医師・中村哲。戦火の中で病を治し、井戸を掘り、用水路を建設してきた。  
なぜ医者が井戸を掘り、用水路を建設したのか？  
その答えは、命を見つめ続けた中村の生き様の中にあり、  
私たちはこの映画で中村が生きた、その軌跡をたどることになる。



「彼らは殺すために空を飛び、  
我々は生きるために地面を掘る。」 —中村哲

中村の誠実な人柄が信頼され、医療支援が順調に進んでいた2000年。思いもよらぬ事態に直面し、中村の運命は大きく変わる。  
それが“大干ばつ”だ。渇きと飢えて人々は命を落とし、農業は壊滅、医療で人々を支えるのは限界だった。  
その時、中村は誰も想像しなかった決断をする。用水路の建設だ。  
大河クナルから水を引き、乾いた大地を甦らせるというのだ。しかし、医師にそんな大工事などできるのか？  
戦火の中で、無謀とも言われた挑戦が始まった—。

「ここには、天の恵みの実感、誰もが共有できる希望、  
そして飾りのないむきだしの生死がある。」 —中村哲

専門家がいないまま始まった前代未聞の大工事は、苦難の連続だった。数々の技術トラブル、アフガン空爆、息子の死…  
中村はそれらの困難を一つ一つ乗り越え、7年の歳月をかけ用水路は完成。  
用水路が運ぶ水で、荒野は広大な緑の大地へと変貌し、いま65万人の命が支えられている。そして—。

2019年12月。さらなる用水路建設に邁進する最中、中村は何者かの凶弾で命を奪われた。  
その報にアフガニスタンは悲しみに沈み、ニューヨークタイムズ、BBCなどが悲報を世界に伝えた。  
あれから2年半。日本ではその生き方が中学や高校の教科書で取り上げられ、  
母校の九州大学はその思索と実践を研究し始めた。  
中村の生き様は静かに語り継がれ、輝きを増しながら人々を励まし続けるだろう。  
そして用水路はこれからもアフガン人の命を支え続けていくだろう。

戦火のアフガニスタンで21年間継続的に記録した映像から、  
これまでテレビで伝えてきた内容に未公開映像と  
現地最新映像を加え劇場版としてリメイク。  
混沌とする時代のなかで、より輝きを増す  
中村哲の生きざまを追ったドキュメンタリー！



**日時** 7月1日(土) 1回目:14時 2回目:18時30分

**会場** 東和コミュニティセンター **前売** 一般 1,200円(当日1,500円)

**主催:**とうわ九条の会 電話予約受付中 **中高生・大学** 500円(当日同額) **小学生無料**  
連絡先 090-1934-1956 武政まで